

イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の調査結果について

令和4（2022）年11月にイネ縞葉枯病の媒介虫であるヒメトビウンカの越冬世代幼虫を採取し、保毒虫率と生息密度を調査しました。その結果、イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は県平均2.1%でした。また、越冬世代幼虫の生息密度は県平均41.2頭/10㎡（平年比59.3%）と平年よりやや少ない発生でした（図1）。

イネ縞葉枯病の発生を抑えるには、越冬世代幼虫のヒメトビウンカ防除が大切です。

ヒメトビウンカは、再生稲やイネ科雑草に寄生し越冬します。また、再生稲は縞葉枯ウイルスの伝染源となります。

収穫後の再生稲は速やかに、かつ丁寧に耕起（2回程度）すること、畦畔のイネ科雑草の除草等、ヒメトビウンカの越冬場所をなくすことが重要です。

（イネ縞葉枯病の防除対策の詳細については、[病害虫防除対策のポイント No. 17](#) を当センターホームページに掲載中。）

表1 ヒメトビウンカ越冬世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率（単位：%）

地点名	年度	R2	R3	R4
	2020	2021	2022	
県北部	大田原市蛭畑	2.5	2.1	0
	大田原市親園・実取	1.0	1.0	2.1
	那須烏山市滝田	5.0	1.0	1.0
	さくら市蒲須坂	3.2	3.1	3.1
	高根沢町花岡	1.0	3.1	2.1
県中部	真岡市青田	7.1	3.1	3.1
	宇都宮市横山	2.1	1.0	1.0
	宇都宮市雀宮	7.3	3.1	3.1
	上三川町上三川	9.4	5.2	6.3
	鹿沼市酒野谷	3.1	2.1	1.0
県南部	下野市小金井	6.3	1.0	1.0
	小山市小葉	11.5	2.1	4.2
	小山市石ノ上	6.3	3.1	0
	壬生町助谷	7.3	4.2	2.1
	栃木市惣社	4.3	1.0	3.1
	栃木市大平町真弓	5.2	3.1	1.0
	栃木市藤岡町富吉	3.7	3.1	1.0
	佐野市堀米	4.2	2.1	4.2
	足利市上洪垂	4.2	0	0
	県北部平均	2.5	2.1	1.7
県中部平均	5.8	2.9	2.9	
県南部平均	5.9	2.2	1.9	
県平均	5.0	2.4	2.1	

注：検定サンプルは、令和4(2022)年11月中下旬に、水田畦畔や休耕田のイネ科雑草等から採取したヒメトビウンカ越冬世代幼虫
検定方法：DAS-ELISA法
検定数：96頭/地点

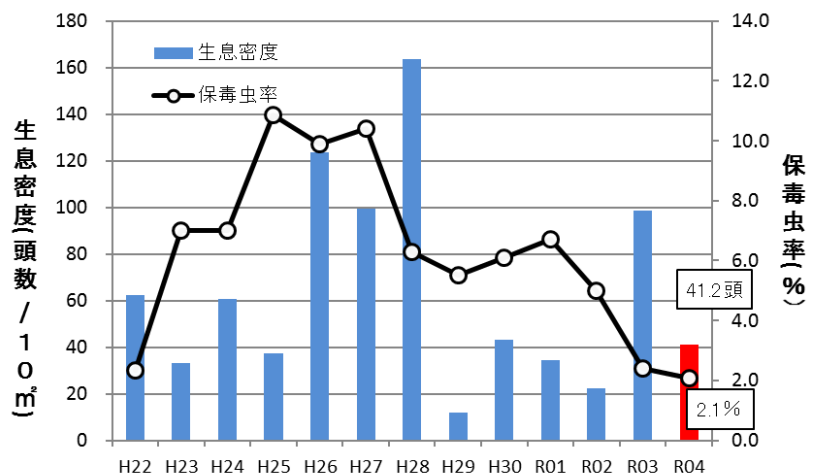


図1 ヒメトビウンカ越冬世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率及び生息密度の推移



写真1 イネ科雑草に寄生するヒメトビウンカ幼虫



写真2 再生稲で発病した縞葉枯病

詳細は、農業環境指導センター（TEL 028-626-3086）までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部 (@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ（<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>）でもご覧になれます。

